

## ■ 令和4年8月12日 総合防災対策特別委員会県内調査

### 1 奈良県広域消防組合

【調査目的】「救急搬送件数が増加傾向にある中での対応状況」について

【調査概要】下記内容について説明を受けた後、警防部 通信指令センターを見学  
＜奈良県広域消防組合の概要＞

- 平成26年4月に37市町村による消防の広域化のため発足
- 全国でも最大規模の消防一部事務組合
  - ※奈良県広域消防組合の規模等（R3消防現勢調査）
    - ・管内区域の人口：16位 管内区域の面積：1位 職員数：111位 救急出動件数：16位

＜広域化のメリット＞

- 住民サービスの向上
  - ・現地到着時間の短縮  
GPSを活用し消防・救急車両の位置・状況を把握災害現場に最も近い車両から出動部隊を編成 等
  - ・現場活動支援の強化  
消防・救急車両位置、水利、道路障害、警防図面表示が可能な車両運用端末装置の導入 等
  - ・大規模災害への対応  
通報集通時に指令台の数を柔軟に増加 等
  - ・小規模消防本部では実現の難しいシステムの導入  
119番FAX受信装置、音声通報困難な方を対象としたNET119通報装置、通訳コンシェル119の導入 等
- 広域化による費用の節減
  - ・広域化せず、各消防本部が通信指令施設を整備するよりも、費用節減効果が大きい
- 業務の高度化
  - ・現場指揮の充実  
管内3箇所（北部：大和郡山消防署、中央：消防本部警防部、南部：五條消防署）に方面隊を配置することにより、災害現場の充実強化、現場指揮活動能力の強化
  - ・ドローンや高度鑑識・鑑定資機材の導入  
ドローンの活用によりリアルタイムに現場の映像を伝送するとともに、火災の現場から収去した家電製品・焼損物等をX線透過装置、赤外分光光度計、デジタルマイクロスコープ等を活用した科学的分析を実施

＜救急搬送件数が増加傾向にある中での対応状況＞

- 過去2カ年と比較し、令和4年度は救急出動件数等が急激に増加する見込み
  - ・救急出動件数：上半期で13.5%の増加（前年比）
  - ・119番受信件数：上半期で15%の増加（前年比）
- 救急出動件数は、全国、管内区域ともに増加しており、今後も増加する見込み
  - ・新型コロナウイルス感染症第7波と連動し、令和4年7月には2時間の間に50件も出動した日がある
  - ・組織規模の縮小は住民サービスの低下に至ることも考えられる（1件あたり平均活動時間は1時間17分）



## 2 鹿野園地区地すべり対策工事

【調査目的】「鹿野園地区地すべり対策工事」について

【調査概要】下記内容について説明を受けた後、地すべり対策工事現場を見学  
<地すべり対策工事の状況確認>

○被災箇所 奈良市鹿野園町鹿野園地区

○工事概要

- ・アンカー : 88本
- ・横ボーリング : 1,160メートル(31本)
- ・頭部排土 : 7,000立方メートル

○経緯

- ・平成7年度  
国土交通省の「地すべり防止区域」に指定
- ・令和元年度  
8月30日: 50.5mmの雨量を観測した際に地すべりの大きな変化が発生  
9月13日: 2世帯に対して奈良市が避難勧告発令  
9月19日: 専門家による現地調査  
10月28日: 災害関連事業採択
- ・令和2年度  
4月6日: 応急横ボーリングによる排水(12本、625メートル)  
5月13日: 地すべり対策工事(1工区)契約  
7月~ : 梅雨時期の降雨により、木造2階建ての民家は元々あった場所から水平方向に10メートル以上も移動するといった大規模な地すべりが発生  
7月14日: 地すべり等防止法に基づき、地すべり箇所より下流4世帯に対し、県が立ち退き指示を発令  
7月~8月: 応急横ボーリングによる排水(追加)(8本、304メートル)  
岩井川へ仮配水管を設置  
崩壊末端部に対する大型土のう設置  
浸水想定区域に対する大型土のう設置  
岩井川ダムの常時満水位から△2.0メートルの洪水容量確保  
7月~ : 24時間体制で職員による監視(~令和2年10月末)  
現地にガードマンを配置して監視(~令和3年10月末)  
伸縮計、GPS計測器、監視カメラ、水位計等の機器による監視(継続中)  
10月~1月: 建物補償契約、建物撤去
- ・令和3年度  
7月14日: 2工区工事契約  
9月30日: 1工区工事完了
- ・令和4年度9月30日(予定): 2工区工事完了

